



「打初め式」での記念撮影（左から2人目が若田部副総裁）（撮影：中島美沙）

新五百円貨の「打初め式」が 開催されました

▼二〇〇〇年以来、二二年ぶりの改鑄となる新五百円貨の製造を始める「打初め式」(注1)が、二〇二一年六月二十一日、さいたま市の造幣局さいたま支局で開かれました。

▼「打初め式」には、日本銀行から若田部昌澄副総裁が出席し、麻生太郎財務大臣らとともに圧印機のスイッチを押すとともに、次々と新五百円貨が打ち出されました。

▼新五百円貨は、偽造抵抗力強化の観点から、①三種類の金属を組み合わせた「バイカラー」。

新 500 円貨



(注1) 新五百円貨の「打初め式」は、近代通貨制度一五〇周年記念貨幣の打初め式ともに行われました。

(注2) 異なる種類の金属板をサンドイッチ状に挟み込む「クラッド」技術でできた円板を、それとは異なる金属でできたリングの中にはめ合わせる「バイカラー」技術の組み合わせ。

▼新五百円貨は、偽造抵抗力強化の観点から、①三種類の金属を組み合わせた「バイカラー」。

▼新五百円貨については、財務省より、本年十一月をめどに発行を開始することが発表されています。日本銀行では、新五百円貨の安定的かつ着実な流通に向けた準備作業を進めています。なお、具体的な発行開始日については、所要の準備が整い次第、日本銀行から公表します。

▼「打初め式」や改鑄に関する情報は、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



クラッド(二色三層構造)」「注2)」「異形斜めギザ」(注3)を導入するほか、③貨幣の縁の内側に新たに微細文字を加工するなどしています。

▼新五百円貨については、財務省より、本年十一月をめどに発行を開始することが発表されています。日本銀行では、新五百円貨の安定的かつ着実な流通に向けた準備作業を進めています。なお、具体的な発行開始日については、所要の準備が整い次第、日本銀行から公表します。

(注3) 貨幣の縁に入れた斜めギザの一部を他のギザとは異なる形状にしたもので、通常貨幣(大量生産型貨幣)への採用は世界初。

「金融モニタリング協議会」の開催について

▼日本銀行では、より質の高いモニタリングの実施と、金融機関の負担軽減を図る観点から、金融庁との連携をさらに強化す



Financial Monitoring Council

「金融モニタリング協議会」のロゴマーク

るための取り組みを進めています。本年三月には、金融庁とともに、金融モニタリングでの連携強化やデータの一元化などについて、これまでの取り組み状況や今後の方針を整理し、「金融庁・日本銀行の更なる連携強化に向けた取り組み」を公表しました。

▼こうした取り組みの一環として、六月七日、「金融モニタリング協議会」(Financial Monitoring Council)の第一回会合を開催しました。本協議会は、昨年十一月に設置した「金融庁検査・日本銀行考査の連携強化に向けたタスクフォース」を後継する幹部級の常設会合として、今後も、半年に一回程度の頻度で開催していく予定です。日本銀行では、本協議会を通じて、金融庁との連携強化の取り組みをさらに推進していく方針です。

貨幣博物館テーマ展 「渋沢栄一にまつわる お金の話 ―第一国立銀行 紙幣発行までのあゆみ―」 開催中!

二〇二三年一月十六日(日)まで

▼二〇二四年度上期をめどに、新しい日本銀行券が発行されます。そのうち一万円券は四〇年ぶりに肖像が変わり渋沢栄一となります。渋沢栄一は一橋家、大蔵省に仕官し、そして第一国立銀行の頭取を長く務め、それぞれでお金の発行に携わりました。本展示では、渋沢栄一が発行に関わった幕末から第一国立銀行までのそれぞれの紙幣と、第一国立銀行の風景が描かれた錦絵をご紹介します。

東京駅や日本橋にお出かけの際にお立ち寄りいただければ幸いです。

【入館料】 無料

【休館日】 月曜日（ただし祝休



渋沢栄一が頭取を務めた第一国立銀行（錦絵は期間中展示替えがあります）



日は開館)、年末年始（十二月二十九日～一月四日）

【開館時間】 午前九時三十分～午後四時三十分（入館は午後四時まで）

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。

【所在地】 東京都中央区日本橋本石町一―三―一

右／渋沢栄一が発行に携わった一橋家の紙幣
下／渋沢栄一の名前が書かれた第一国立銀行紙幣



【お問い合わせ先】

金融研究所貨幣博物館

〇三―三二七七一

三〇三七

「決済の未来フォーラム
クロスボーダー送金分科会
(第三回)」を開催(六月)

▼決済機構局では、六月三日に標記会合を完全オンライン会合の形式で開催しました。

▼会合では、これまでの分科会と同様、①クロスボーダー送金の改善に向けた国際的な取り組みや、②AML/CFI対策(注)について活発な議論が交わされたほか、③個々の送金事業者によるクロスボーダー送金関連の取り組みが紹介されました。

▼①では、金融安定理事会(FSB)の市中協議文書「クロスボーダー送金の四つの課題の対処に向けた目標」で示された定量的な目標案が説明されました。参加者からは、改善に向け

たグローバルな取り組みを支持する声が聞かれました。そのうえで、グローバルな定量目標の在り方については、定義や達成への道筋をしっかりと示す必要性を強調する声や、達成目標時期を適切に設定する必要があるといった声が聞かれました。

▼②では、AML/CFI対策について関連業務の効率化に向けた取り組みなどが紹介されました。効率化に向けて協業などの取り組みがなじむ業務分野や、AIなどの技術の活用可能性などが議論されました。

▼③では、外国人技能実習生などが郷里送金をするための金融サービスの提供について、銀行とノンバンクの協業事例が紹介されたほか、サービス改善に向けた送金事務のデジタル化や海外事業者との協業などの取り組みが紹介されました。また、クロスボーダー送金サービスの提供とその改善について、非競争

領域における送金事業者間の協働に期待するとの見方が示されました。

▼本会合の議事要旨などは、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



(注) マネーロンダリングおよびテロ資金供与対策などを指す。

「決済の未来フォーラム
デジタル通貨分科会」
中央銀行デジタル通貨を
支える技術」を開催

▼決済機構局では、六月十一日に、標記会合を完全オンライン会合の形式で開催し、一般事業者の方々から、中央銀行デジタル通貨(CBDC)に活用し得る具体的な技術や取り組みをご紹介いただきました。

▼会合では、CBDCがデジタル社会における決済プラットフォームとして機能することを念頭に、求められる①セキュリティ

ティについて、主な検討ポイントや認証技術の考え方、②ユニバーサルアクセスについて、モバイルネットワークの進化や近年の金融アプリの特徴、③情報技術の標準化について、決済システムレポート別冊「デジタル通貨に関する情報技術の標準化」に関する説明と、意見交換が行われました。

▼日本銀行としては、民間部門、とりわけ一般事業者が有する最新の技術やノウハウについて学習し、今後の実証実験や制度設計に活かしていくことが大切と考えています。決済機構局としては、こうした活動を通じて、CBDCの検討に関する連携の輪が広がっていくことを期待しています。

▼本フォーラムの議事概要などは、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



編集後記

■インタビュー相手の白石氏は、ヨットマンをサムライに例えています。波しぶきを船上で浴びながら荒海を帆走する写真（6頁）を見るとヨットレースの過酷さがヒシヒシと伝わり、確かにサムライだと得心できます。記事を通じて、白石氏の熱気と元気、そしてヨットの魅力が読者に伝わればと願っています。

■日本史の教科書では遠流の地として取り上げられる隠岐島ですが、島の海士町が「地方創生のトップランナー」であることを、地域の底力では紹介できました。多様なバックグラウンドを持つ島外からの移住者が、地域振興、研修、漁業やさまざまな分野で活躍できる環境を海士町が用意できている点は、他の自治体のみならず、あらゆる組織にとって示唆的だと思われます。

■手前味噌で恐縮ですが、FOCUS BOJで紹介した国庫金のキャッシュレス納付に向けた日本銀行業務局の取り組みは、官庁、金融機関、税理士、企業などの幅広い関係者への働き掛けを平易に解説できたことと自負しています。読者の皆さまのご評価はいかがでしょうか？

（渡邊）

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2021年秋号
編集・発行人 渡邊昌一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
禁無断転載

「ISOパネル（第三回） 金融の デジタル化時代における 新しいガバナンスと 標準化」を開催（六月）

▼決済機構局では、六月二十三日に標記パネルディスカッションをオンラインで開催しました。

▼社会全体のデジタル化の進展により、取引のボーダーレス化が一層進めば、多くの利害関係

者が互いに関与し合う新しいガバナンスの姿に向かっています。この見方が近年示されています。また、関係者のボーダーレスな合意に基づいて策定された国際標準を活用していく可能性も高まるとみられています。

▼パネルディスカッションでは、「Society5.0」（注）と呼ばれる社会に向けた新たなガバナンス像や、分散型金融が登場

している金融サービス分野でのガバナンスの課題などとともに、標準化の果たす役割について経済産業省、金融庁の担当官および弁護士の方々が議論を行いました。

▼決済機構局では、金融サービス分野の国際標準化を検討する国際標準化機構（ISO）・金融サービス専門委員会（TC68）の国内委員会事務局を務め

ています。金融サービス分野の標準化に関心のある方は、日本銀行ホームページに活動内容や取り組みを掲載しておりますので、ご覧ください。

（注）政府の第五期科学技術基本計画で提唱された「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」。

